

松平郷めぐり

高月院

松平氏を祀るの菩提寺。山門や本堂は徳川家康によって寄進されました。お堂奥には松平家墓所も。

赤・緑・黒の3色ある
「葵特別御朱印」は
1枚500円

高月院37代目住職の田中祥雄さん。
38代目の顯雄さんがyoutubeで配信する「高月院チャンネル」もチェックしてみて!

松平郷館

松平親氏公坐像をはじめ、徳川將軍家の祖先松平家に関する資料を展示公開する資料館。(会館は10:00~15:00・水曜定休)

松平東照宮と高月院の中間にあるので、立ち寄ってみよう。

天下茶屋

松平郷園地内にある武家屋敷風の休憩どころ。うどんやそばの食事メニューから甘味まで揃う。名物「天下もち」を召し上がり。(営業10:00~16:00・水曜定休)

TENKA MOCHI

天下もち 織田がつき 座りしままに 食うは家康

天下もち 羽柴がこねし

松平東照宮から徒歩5分ほどの場所に

あるのは、松平家の菩提寺「高月院」。この

間を結ぶ約2ヘクタールは「松平郷園地」と

して、豊かな自然を巡る遊歩道になっています。

およそ650年前に「寂靜寺」として

建立されたところは、親氏が本尊阿弥陀仏や

お堂、塔などを寄進し、今の「高月院」とな

りました。本堂の左奥地には、葵の紋が刻

まれた石碑に囲まれた松平家墓所があり、

小高い場所から松平郷を見下ろすように、

初代親氏、二代泰親、四代親忠の夫人を祀

る3基の印塔が建っています。「松平親氏

公顯彰会」の会長を務める、高月院37代目

住職の田中祥雄さんは、このお寺が万人に

開けた場所であることを望んでいます。

式高いお寺ですが、一般向けの写経体験や、

毎朝6時30分からは誰でも参加できる「朝

勤行」を開催。多くの人が訪れる親しみ深

い場所になっています。また取材当日は、お

堂内で祥雄和尚が大学生に教鞭を振るつ

てきました。

動乱の時代に僧として諸国をまわってきた親氏の願いは、争いも貧困もない誰もが心安らかに暮らせる世の中にする。この悲願を託された家康は、見事天下泰平の世を実現させました。現代に受け継がれた徳川300年の歴史の基盤となつたここ松平郷で、かつての偉人に思いを馳せながら、数多く残る史跡を巡つてみてはいかがでしょうか。

松平東照宮

徳川家康とその始祖、松平親氏を祀る神社。拝殿に描かれた、家康生誕400周年を記念して描かれた天井画は圧巻。

天井の四隅には
「双葉葵」が
縁に描かれています。

参拝のあとに
御朱印をいただこう!
1枚300円

松平郷ふるさとづくり
委員会事務局
tel.0565-85-1629
<http://www.matsudairagou.jp>

草木を描いた圧巻の天井画
郷を代表する「松平東照宮」

松平郷入り口にある初代・松平親氏公の
西洋風ブロンズ像の涼々しいお姿♡

CHIKAUZI
MATSDAIRA

00

券頭特集

豊田市には各地で様々な歴史が受け継がれています。中でも「松平郷」は、300年続く徳川家の礎となった松平氏発祥の地として全国に名を馳せています。室町時代、松平郷を訪れた旅の僧「徳阿弥」が、この地で「松平太郎左衛門親氏(ちかうじ)」となり、徳川家の始祖・松平家の歴史が始まりました。徳川初代家康は親氏から9代目に当たります。この間松平氏は三河一国を治めるほどに勢力を伸ばしていましたが、近臣の謀反などにより勢力が弱体化。松平家の跡継ぎである竹千代後(の家康)に、親氏の悲願である平和な世の中への願いが託されたのです。

松平郷を代表する「松平東照宮」には、親氏と家康が祀られています。かつて親氏の屋敷があった場所に建ち、現在の社殿は昭和初期に建てられました。特筆すべきは拝殿内に描かれた天井画。この地区で見られる自然の草花が108枚の杉板に描かれた天井画は、豊田市の漆芸家・安藤則義さんが約1年半の歳月をかけて描いた大作です。家康生誕400年のメモリアルイヤーである2015年にお披露目されました。

古式ゆかしい「お水取り」の儀式が行われます。今でもこの井戸の水の状態で吉凶が占われるそう。深い緑に囲まれた神秘的な史跡は一見の価値あります。

た。天井の北側には春の植物が、東側には夏、南側には秋、西側には冬の植物が描かれています。また天井の四隅には徳川家と松平家にゆかりの深い「双葉葵」が描かれているのも確認しておきたいところ。後世に長く残すために国産漆のみを使用し、古来からある顔料などを使用して描かれているそうです。神職さん、わく、この天井画は50年後に最も美しく見えるとのこと。漆黒と金箔に縁取られ、現在でも十分見ごたえのある天井画ですが、経年美を備えた数十年後が楽しみでもあります。

拝殿の東側には、松平家が代々井戸の水を産湯として用いてきた「産湯の井戸」があります。現在もこんこんと水が湧くこの井戸は、年に一度、春の「権現祭」に開かれ、古式ゆかしい「お水取り」の儀式が行われます。今でもこの井戸の水の状態で吉凶が占われるそう。深い緑に囲まれた神秘的な史跡は一見の価値あります。

天下泰平の意思を
後世につなげる

松平氏の菩提寺「高月院」

松平東照宮から徒歩5分ほどの場所に

あるのは、松平家の菩提寺「高月院」。この

間を結ぶ約2ヘクタールは「松平郷園地」と

して、豊かな自然を巡る遊歩道になっています。

およそ650年前に「寂靜寺」として

建立されたところは、親氏が本尊阿弥陀仏や

お堂、塔などを寄進し、今の「高月院」とな

りました。本堂の左奥地には、葵の紋が刻

まれた石碑に囲まれた松平家墓所があり、

小高い場所から松平郷を見下ろすように、

初代親氏、二代泰親、四代親忠の夫人を祀

る3基の印塔が建っています。「松平親氏

公顯彰会」の会長を務める、高月院37代目

住職の田中祥雄さんは、このお寺が万人に

開けた場所であることを望んでいます。

式高いお寺ですが、一般向けの写経体験や、

毎朝6時30分からは誰でも参加できる「朝

勤行」を開催。多くの人が訪れる親しみ深

い場所になっています。また取材当日は、お

堂内で祥雄和尚が大学生に教鞭を振るつ

てきました。

動乱の時代に僧として諸国をまわってきた親氏の願いは、争いも貧困もない誰もが心安らかに暮らせる世の中にする。この悲願を託された家康は、見事天下泰平の世を実現させました。現代に受け継がれた徳川300年の歴史の基盤となつたここ松平郷で、かつての偉人に思いを馳せながら、数多く残る史跡を巡つてみてはいいのかがでしよう。

00